上り口説　（ぬぶいくどうち）

本調子

たび　ぬんじたちくぁ

工四乙四尺工四乙四合尺工合尺工五七五工

んぬん　どーしんてい　くぁん　ぬんふしうがでい

尺工五工尺上老上尺工合尺工五工尺四

くがにしゃくとうていたちわかる

合尺工五四乙合尺合乙四上四工四乙四

むゆるちむりわゆをがしまさだぬ

合尺工合尺工五七五工尺工五工尺上老上

さちにはヰならでいえヰありにみゆる

尺工合尺工五工尺四乙合老五尺五七五工

わうかヰむんふじにみまごさくら

尺工五工尺四合尺工五四乙合尺合乙四

じま

上四

一、旅ぬ出立（んじたち）観音堂（くぁんぬんどー）千手観音（しんていくぁんぬん）
伏拝（ふしうが）で黄金酌取（くがにしゃくとう）てい立別る

二、袖（すでい）に降る露押払（ちゆうしはら）ひ大道（うふどーまつばらぎーじ）松原歩み行けば八幡崇元寺（すーぎーじ）

三、見栄地高矼（みーいじたかはし）打渡（うちわた）てい袖につらねてい諸人（むるひと）の行（ゆく）も帰るも中ぬ橋

四、沖（うち）ぬ側迄（すばまでい）親子兄弟（うやくちょうで）連（ち）りて別ゆる旅衣（ぐるむ）袖と袖とに露（ちゆ）涙

五、船（ふに）ぬ纜（とうむじな）とうくどうくとう船子（ふなく）勇みて真帆（まふ）引けば風（かじ）やまとうむに午末（んまふいちじ）

六、燃る煙（ちむり）は硫黄島佐多ぬ岬に走並（はしなら）でい、エイありに見ゆるは御開門（うかいむん）富士に見紛う櫻島